

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語 18人	算数 18人	理科 18人
第5学年	国語 19人	算数 19人	理科 19人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

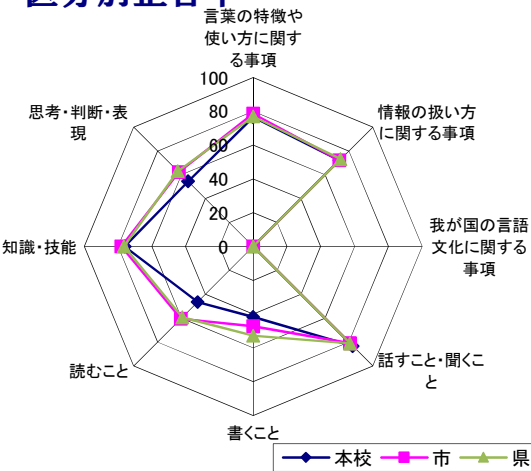
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.5	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	72.2	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	83.3	81.0	81.1
	書くこと	41.7	47.2	52.8
	読むこと	46.5	60.5	59.3
観点	知識・技能	76.1	78.0	76.5
	思考・判断・表現	54.5	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

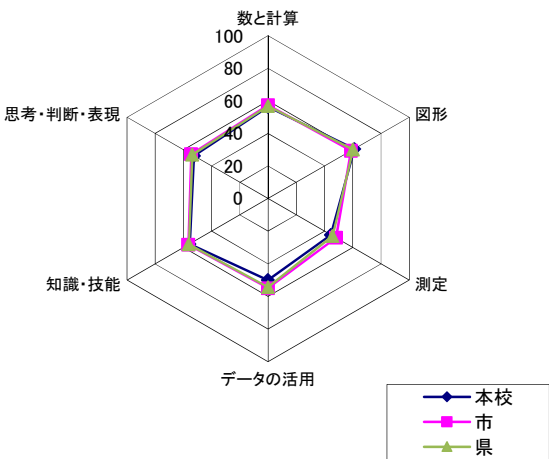
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○漢字の読み書きは、市の平均より正答率が上回るものが多く、定着しつつある。 ○昨年度の課題であった、主語と述語を選ぶ問題では、市の平均を上回った。 ●ローマ字の読みの定着が不十分であり、市の平均正答率を大きく下回った。	・AIドリルを活用し、既習の漢字の定着を図る。 ・ローマ字練習アプリ等を活用しながら、定期的に定着状況の確認をする機会をつくる。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○国語辞典の使い方を正しく理解できている。	・調べ学習等では、必要に応じて1人1台端末や書籍を選択させ、情報を収集する力を伸していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○話し合いの内容を正しく聞き取ったり、司会者の話し方の工夫を捉えたりすることについて理解できている。	・各教科や学級活動では、必要に応じた話し合い活動を意図的に取り入れ、意見を述べる機会を設定していく。 ・何について考えるのかを明確にし、自分の意見や考えを明らかにしたうえで、話し合いに参加できるように指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●文章の長さが不足していたり、2段落構成にせず書いてしまったりするなど、指定された条件通りに書くことに課題が見られる。	・文章を書く活動では、作文用紙の使い方や書くときのポイントを確認し、児童自身が正しく書くことができたか見直しができるよう指導する。 ・朝の学習等で、文章の視写の学習プリントを取り入れ、文章の書き方や構成にふれる機会を多く設ける。また、児童の書きやすい内容で条件作文を書く機会を設け、書く活動に慣れさせていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●物語文、説明文ともに、叙述をもとに内容を捉えることに課題が見られる。 ●文章の要約を読み、空欄に適する言葉を抜き出す問題では、半数以上が無解答であり、文章を読み取ることに課題が見られる。	・文章の読み取りでは、文章の構成に着目させ、各段落の要旨を抑えさせるなど、筆者の意図を丁寧に読み取らせていくことで、読解力を伸ばしていく。 ・短い文章から、答えとなる部分を抜き出す練習を行う。その際に、問いを正しく読み取り、根拠となる部分を抜き出せるよう丁寧に指導する。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.3	57.4	56.9
	図形	61.1	58.7	60.1
	測定	44.4	48.1	45.7
	データの活用	50.0	54.9	54.3
観点	知識・技能	55.6	56.6	56.2
	思考・判断・表現	52.5	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

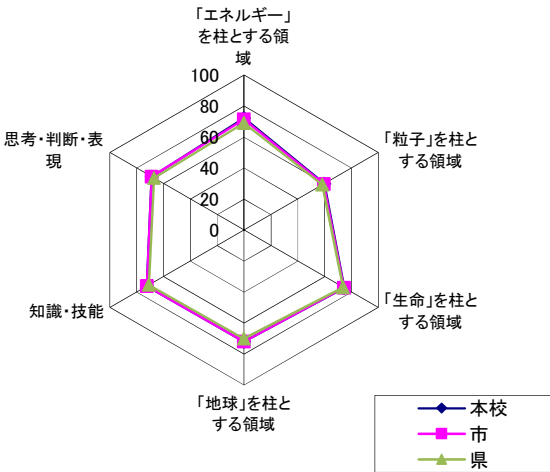
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○大きな数、小数のしくみを理解して、表すことができる。 ○分からない数を□として図に表したり、□を使った式の意味を読み取ったりすることができる。 ●3けた-3けた、2けた×1けたなどの計算に課題が見られる。 ●分数のしくみや表し方は理解しているが、それを説明することに課題が見られる。	・朝の学習や宿題において、基礎的な計算問題に繰り返し取り組み、習熟を図っていく。 ・授業の中で、数のしくみや表し方を説明する活動を取り入れ、考えを伝え合う力を高められるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○正三角形の性質を利用して、コンパスを用いて作図をすることができる。 ○球を平面で切るとどのような形になるのかを答えることができる。 ●球の性質を利用して、半径を求める計算をすることに課題が見られる。	・作図したり、具体物や半具体物を用いて考えたりする活動を通して、知識の定着や活用力の向上を図っていく。
測定	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○ある重さを、基準量のいくつ分になるのか考え、説明することができる。 ●問題を適切に読み取り、単位の異なる2つの道のりについて、どちらがどれだけ短いのか説明することに課題が見られる。	・長さについて、単位をそろえて比較したり計算したりできるよう、長さの単位についての理解を深める。 ・問題文を正確に読み取るために、問題文を丁寧に読んだり、ポイントとなる部分に線を引いたりする習慣付けを行い、題意を捉えられるように指導する。
データの活用	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○二次元の表を読み取ることができる。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフについて、適切である理由を考えることに課題が見られる。	・目的に応じてグラフや表を用いて表したり、読み取ったことを根拠を明らかにして説明したりする活動を意図的に取り入れ、定着を図っていく。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.2	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	59.7	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	74.5	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	72.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	72.5	72.5	70.9
	思考・判断・表現	68.8	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○風の強さや輪ゴムの本数と車の動いた距離について、正しい結果を選ぶことができる。送風機や輪ゴムを使った実験により、理解が深まったと考えられる。 ●磁石につくもつかないものを調べる実験の結果から、正しく考察することについて課題が見られる。	・磁石につくものとつかないものを調べる実験では、一人一人が身の回りの具体物を対象に実験できる場を設定し、実験結果から考察したことを全体で共有し合うことで、磁石につくものについての正しい理解を深めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○異なる種類の物質の質量を同じにしたときの体積の違いについて、正しい結果を選ぶことができる。金属や木などの身近な具体物を使った実験により理解が深まったと考えられる。 ●形を変えても重さは変わらないことや、同じ体積でも、ものの種類によって重さが違うことについて、理解が不十分である。	・体積と重さの関係について、粘土や実験用具を用いた操作・実験を行い、体験に基づいた確かな知識の定着を図っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○モンシロチョウとトンボの育ちを表す図から、育ちの違いを自分の言葉で適切に説明することができる。 ●ホウセンカの育ちについて理解が不十分である。	・植物の成長について、観察・記録を継続して行い、絵に描いたり文で表したりすることで、育ちの特徴について知識を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○温度計を使った地面の温度の測り方について全員が正しく理解している。観察や記録をとる経験が、理解を促したと考える。 ●日なたと日陰、午前と午後の地面の温度について資料を読み取ることが不十分である。	・「日なたや日陰、午前と午後」の地面の温度の違いを計測し、結果を表や図・文などでまとめることで、条件の違いによる地面のあたたまり方の違いについて理解を深めるようにする。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習に対して自分から進んで取り組んでいる。」と回答した児童は82.4%であり、市の平均を10%程度上回っている。教職員が授業改善に努め、児童が主体的に学習に取り組めるようにしていた成果と考えられる。

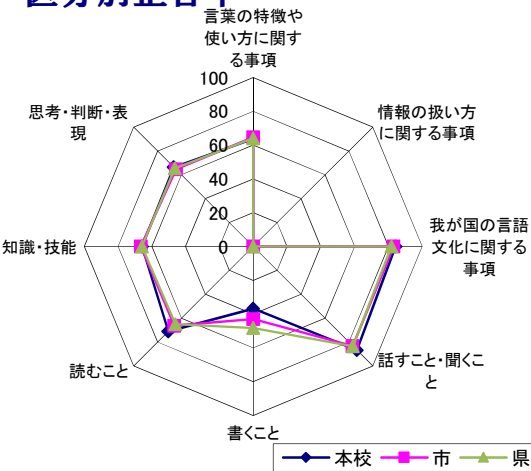
○「毎日の生活が充実していると感じている」と回答した児童は100%であり、市の平均を大きく上回っている。「先生は学習のことについて褒めてくれる」と回答した児童は、94.1%、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した児童は県の平均を大きく上回っており、自己肯定感が育まれている結果だと考えられる。

●「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」「ぎ問や不思議に思うことは、わかるまで調べたい。」と回答した児童は市の平均を下回っており、「土曜や日曜など学校が休みの日に、1日辺りどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師も含む)。」は2時間以上のものが0%、1時間未満が82.4%であり、自主的な学びの意欲が低い。自己学習の課題を与え自主的な学びの方法を理解することで、自主的な学びの意欲を向上させることができると考える。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	63.7	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	84.2	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	86.8	83.3	83.4
	書くこと	36.8	42.8	48.2
	読むこと	71.1	66.1	65.1
観点	知識・技能	65.8	66.5	65.9
	思考・判断・表現	66.5	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

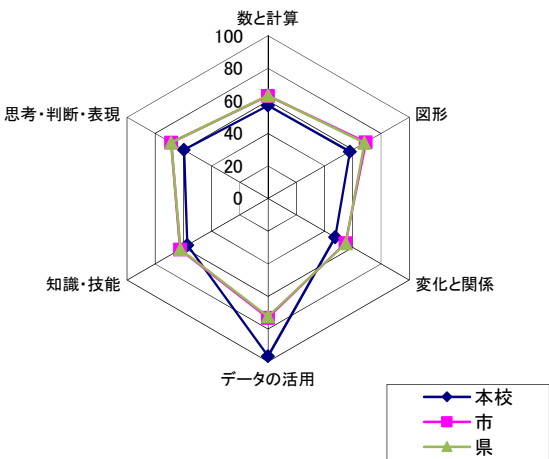
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○漢字の読み書きが定着しつつある。 ●修飾・被修飾の関係や熟語の構成を捉えることに課題が見られる。	・AIドリルを活用したり、下の学年の漢字練習に取り組ませたりする等、既習の漢字の定着を図る。 ・授業で出てきた一文や熟語の構成について、折に触れて確認していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○ことわざの意味を理解し、自分の表現に用いることができる。	・自主学習などで積極的に取り入れるなどして、ことわざや故事成語に触れる機会を増やすことで、それらを自分の言語活動に取り入れさせ、表現の幅を広げさせていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○話し合いの内容を正しく聞き取ったり、話し手の工夫を捉えたりすることができている。 ○意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えを理由を挙げてまとめることができる。	・自分の思いや考えを表現できるように、ペア学習やグループ学習等、話し合いの形態の工夫を図っていく。 ・定期的に学習の約束を再確認し、話し手の意図を考えて聞く習慣を身に付けさせる。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ●7～9行の間で文章を書くという条件を満たしていない、または無解答である割合は約6割であった。また、2段落構成で正しくかけている児童は全体の2割程度であり、条件に合わせて正しく書くことに課題が見られる。	・文章を書く活動では、作文用紙の使い方や書くときのポイントを確認し、児童自身が正しく書くことができたか見直しができるよう指導する。 ・朝の学習等で、文章の視写の学習プリントを取り入れ、文章の書き方や構成にふれる機会を多く設ける。また、児童の書きやすい内容で条件作文を書く機会を設け、書く活動に慣れさせていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均よりやや高い。 ○物語文、説明文ともにほとんどの問題で市の平均正答率を上回っており、文章の内容を正しく読み取り、問題文に合った選択肢を選んだり、言葉を抜き出したりすることができている。	・文章の読み取りでは、文章の構成に着目させ、各段落の要旨を抑えさせる等、筆者の意図を丁寧に読み取らせていくことで、読解力を伸していく。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.1	63.0	63.3
	図形	57.9	69.2	68.3
	変化と関係	47.4	54.8	55.0
	データの活用	96.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	57.2	62.3	62.1
	思考・判断・表現	59.7	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

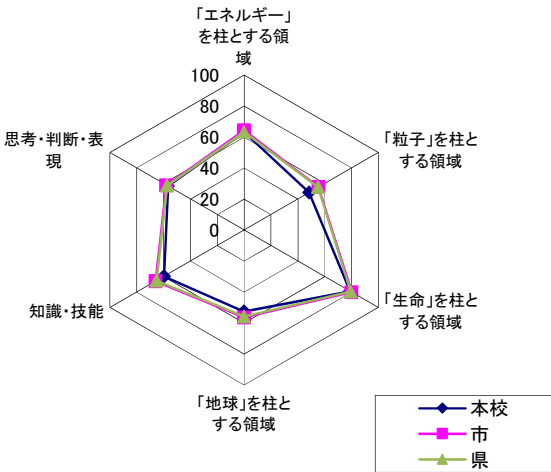
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○あまりのある2けたのわり算、整数－小数などの、基礎的な計算ができる。 ●小数のしくみを理解し、いくつ分かで表したり、小数÷整数の計算をしったりすることに課題が見られる。 ●四則計算の順序について理解し、説明することに課題が見られる。	・小数について、0.01や0.001の何個分かを表し、大きさを確認することで、理解を深める。 ・小数のわり算での小数点の位置を確認し、宿題や朝の学習で反復練習を行うことで定着を図る。 ・計算のきまりについて確認し、正しい順番で計算を行うことができるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ●立体の構成要素から、立方体・直方体を見分けることに課題が見られる。 ●三角定規を用いた角の大きさの計算に課題が見られる。	・辺、面、頂点などの立体の構成要素について、実物を用いて確認し、理解を深める。 ・三角定規の角の大きさについて向きを変えても正しく理解できるよう復習し、定着を図る。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ●伴って変わる2つの数の関係を読み取り、計算することに課題が見られる。 ●伴って変わる数を、□や○を用いて式に表すことに課題が見られる。	・2つの数量の変化の中にある、きまった数や規則性を見付ける活動を多く取り入れ、理解を深めていく。 ・2つの量を比べる時は、なぜその答えになるのかという根拠を明確にして説明する活動を取り入れ、言語活動を進めていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○二次元の表を読み取り、それぞれの数が何を意味しているのかを説明することができる。 ●表題の異なる折れ線グラフと棒グラフから、グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題が見られる。	・算数以外の理科や社会科においても、折れ線グラフや棒グラフなどに着目し、どのような情報が読み取れるのかを意識させる。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	63.2	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	48.4	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	79.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	52.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	59.7	66.0	65.3
	思考・判断・表現	56.7	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○電流が流れない回路を流れるように改善するためにどうすればよいか考えることができています。 ●検流計の仕組みや、乾電池のつなぎ方と電流の向きや大きさの関係についての理解が不十分である。	・電流の流れ等、目視しにくいものは、図解等で電気の流れをイメージしやすくしたり、簡易検流計を使い、数値で確認したりすることで、変化について捉えやすくする。 ・実験の予想や実験の時の様子について説明をする場面を設け、結果や考察などにおいて自他の意見の相違点を確認し合うなどの機会を増やしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○閉じ込められた空気や水の特性について理解できている。空気でつぼうを使った実験を行い、結果を確かめたためと考えられる。 ●湯気や水のあたたまり方についての理解が不十分である。	・水の形態変化やあたたまり方の理解が深まるよう、実験や生活経験を生かした授業の工夫をしていく。 ・実験結果から考察をしっかりと行うとともに、身近な現象についても説明ができるように用いる言葉を提示する等して、思考力や表現力を身に付けさせる機会を増やしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○ヘチマの成長の様子や関節について、正しく理解できている。 ●ヒトの体の仕組みにおいて、骨のはたらきについての理解が不十分である。	・ヒトの体のつくりについての学習では、重いものを持ち上げる等を例示し、経験を通して理解が深まるようにしていく。 ・学習内容が生活の中でどのように関連付いているのかや生かされているのかを取り上げ、予想や仮説を立てて実験に取り組むように指導の工夫、改善を行う。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○雨の日の気温の変化についてよく理解できている。 ●気温の変化を表したグラフを正しく読み取ることについての理解が不十分である。	・天気によって一日の気温の変化の仕方に違いがあることを、観察実験データ等を結び付けて指導し、理解できるようにする。 ・実験で得た結果や資料から読み取ったり、グラフ等にまとめる活動を取り入れる。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている。」と回答した児童が94.7%,「授業を集中して受けている。」100%と、県の平均を大きく上回っており、めあてを明確にした授業改善を行ってきた成果だと考えられる。

「勉強していて、おもしろい、たのしいと思うことがある。」と回答した児童が市の平均よりも高く、児童の興味関心を引き出すような授業の展開を工夫した成果だと考えられる。

●「ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をしますか。」は全くしないが0%,2時間以上が79%,4時間以上も31.6%であった。「ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(けい帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」は市の平均では1時間未満が多いが、本校では2時間以上が42.2%を占めている。時間管理やルールを守ること、情報モラル、メディアリテラシーについて指導を行っていく必要がある。

●「自分には、よいところがあると思う。」と回答した児童が市の平均を大きく下回っている。学力は高まっているが、まだ達成感や自己肯定感をまだ児童の中で得られていないことがうかがわれる。自己満足感、自己肯定感を得られる授業を展開したり、発表する場を意図的に設け、成功体験を積み重ねていったりすることが必要だと考える。

宇都宮市立城山東小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	・「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算)」の計画的な実施。 ・朝の学習「国語」での、「書く力を身に付けるため」のプリント学習の実施。 ・朝の学習での、担任以外の教職員の活用。 ・AIDリルの活用。	○国語「漢字」の読み書きや算数「計算」では、県や市の平均正答率と同等程度であった。 ●4年生では、国語「読むこと」において、平均正答率が市の平均を大きく下回った。 ●国語の「書くこと」に関する問題では、4、5年生ともに正答率が県や市の平均を下回った。 ●4、5年生ともに平日の家庭学習の時間が、30分から1時間の児童の割合が高く、市の平均学習時間を下回った。
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	・学び合い活動での課題設定や発問の工夫。 ・自分の考えを表現するための工夫。(ペア、少人数等の学習形態の工夫、絵や図、1人1台端末の活用。) ・発達段階に応じた話し方・聞き方の段階的指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用。	○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の質問に肯定的に回答した児童の割合が市の平均を4年生は15.7ポイント、5年生は5ポイント上回った。 ○「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる。」の質問に肯定的に回答した4年生の割合が市の平均を上回り、5年生では同等程度となり、昨年度に比べ改善している。 ●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と回答する児童の割合が市の平均を下回った。
実感を伴った作業的・体験的活動の充実	・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的な活動の充実。 ・日常生活における身近な物を測ったり、身近な事象に目を向けたりする機会の、意図的な設定。	○4年生の理科では、全領域において、正答率が市の平均を上回った。 ●算数では、4・5年生ともに「数と計算」「測定」「データの活用」の領域においての正答率が、市の平均を下回った。 ●算数や理科では、4・5年生ともに、データの活用や資料の読み取りについての問題での正答率が市の平均を下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎基本の定着において個人差がある。全体的に、思考力・表現力を要する発展的な問題に課題が見られた。	基礎基本の定着を図る学習の充実。(国語の漢字・算数の計算に重点を置く。)	・基礎基本の定着を図るために、朝の学習等で、ドリル学習やAIDリルを活用し、既習内容の復習を繰り返す。 ・算数や理科などで、教科で使用する用語や用具の指導を丁寧に行う。 ・各教科と連携を図り、自分の考えを表現するために、分量や用語などを用いて文章にまとめる活動を意図的に取り入れ、理解を深める。